

シンポジウムの開催に際して

中国第一歴史檔案館副館長 秦 国経

(翻訳 杜保国)

尊敬する津留健二教育委員会教育長

尊敬する長嶺義光教育委員会次長

尊敬する島元巖図書館々長

ご出席のみなさん

本日、中日両国の研究者による第一回中国・琉球交渉史に関するシンポジウムを開催するにあたり、私はここに馮子直中国国家檔案局々長、徐藝圃・任世鐸中国第一歴史檔案館両副館長及び訪日団の一行五人を代表いたしまして、本シンポジウムの開催に、心から祝意の言葉を申しあげる次第であります。

さて、今回の中日の研究者による明清時代における中国と琉球の歴史資料に関するシンポジウムは、一九九一年三月十八日に中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会との間で正式調印された覚書に基づいて、行なわれるものであります。その目的は、中日両国の研究者による中国と琉球の歴史資料に関する研究と交流を通じて、両国研究者の友情を深め、協力と交流を促進し、さらに中国と琉球の交流の歴史に関する研究のレベルを高めることにあります。

中国と琉球は長い交流の歴史を持っております。わが国に現存している文献の記載によると、早くも紀元六〇五年に隋煬帝が羽騎尉朱寬らを琉球に派遣しました。それ以降、数百年にわたり、交流はつづいてきました。中国で明の太祖が即位し、琉球で中山王察度が政權を掌握してからは、中国と琉球の交流はさらに盛んになりました。明清時代の五百年余りに及ぶ歴史の中で、中国と琉球は朝貢・冊封、琉球官生の国子監への入学及び相互の学者の交流などにより、政治・経済・文化など各分野において、幅広く、長期にわたる交流が行なわれました。これらのことは、たくさんの方の文献に記録されています。残念なことに、種々の事情により、すくなくとも文献が失われてしまいました。しかし、いま現存しているものも相当あります。中国第一歴史檔案館だけでも、清代における中国と琉球の歴史檔案が大量に保管されております。その中には、清の皇帝が琉球国王を冊封する時の詔書、勅諭、諭旨と中山王が清の皇帝にたてまつった奏書・表文及び礼部や福建巡撫に送った咨文があります。また、清の礼部・国子監・内務府及び福建・広東・浙江・安徽・江蘇・山東・河北などの地方官吏が琉球貢使の接待・官生留学の手配・漂流難民の救済のために、皇帝にたてまつった上奏文及び往来の公文書などもあります。これらの檔案は中国と琉球の友好往来の歴史を克明に記録しており、中国と琉球の交流の歴史を研究する上では、最も重要な史料となるものであります。沖縄側にも貴重な文献史料があり、歴代宝案はその一つであります。

このシンポジウムは、双方の檔案史料の情報交換と研究を通じて、お互いに友情と協力関係をよりいっそう促進して、中国と琉球の交流の歴史研究のレベルを高めることに目的があります。

われわれは友情、協力、科学の精神に基づいて、日本側の学者・研究者と切磋琢磨し、長所を取り入れ、短所を補い、思う存分に討論し、このシンポジウムに積極的に取り組むとともに、これが今後の中日の学術交流と研究の

よい機会となれるように努力してまいります。

シンポジウムのご成功とみなさんのご健康をお祈りして、私のあいさつといたします。
ご静聴ありがとうございます。